

わり算の筆算

基礎

かいとう

例題 $48 \div 2$ の筆算

筆算は、大きいくらいから順に 計算します。

$$48 \div 2 = 24$$

「たてる → かける → ひく → おろす」を くりかえします。

1 例題と 同じように、筆算で 計算しましょう。

$$(1) 63 \div 3 = 21$$

$$(2) 84 \div 4 = 21$$

$$(3) 96 \div 6 = 16$$

$$(4) 86 \div 2 = 43$$

2 次の計算をしましょう。あまりも求めましょう。

$$(1) 75 \div 4 = 18 \text{ あまり } 3$$

ヒント：あまりが出るときは「24 あまり 3」のように書きます。
あまりはわる数より小さくなります。

わり算の筆算

標準

かいとう

1 次の計算をしましょう。

$$(1) 72 \div 3 = 24$$

$$(2) 95 \div 5 = 19$$

$$(3) 84 \div 7 = 12$$

2 次の計算をしましょう。(3けた÷1けた)

(1) $264 \div 2 = 132$

(2) $456 \div 4 = 114$

3 96 このおかしを、8人で同じ数ずつ分けます。1人分は何こですか。

(式) $96 \div 8 = 12$

答え (12こ)

けんさん：商 × わる数 = わられる数 になっているか たしかめましょう。

わり算の筆算

応用

かいとう

1 74まいの色紙を、1人に6まいずつ分けます。

何人に分けられて、何まいあまりますか。

(式) $74 \div 6 = 12 \text{ あまり } 2$

答え (12人に分けられて、2まいあまる。)

2 236mのテープを、同じ長さに4つに切ります。

1つ分は何mになりますか。

(式) $236 \div 4 = 59$

答え (59m)

- 3 はばが 23cm の本立てに、あつさ 3cm の本を立てていきます。
本は何さつ立てられますか。

(式) $23 \div 3 = 7 \text{ あまり } 2$

答え (7 さつ)

- 4 135 このおかしを、8 人で同じ数ずつ分けます。
1 人分は何こで、何こあまりますか。

(式) $135 \div 8 = 16 \text{ あまり } 7$

答え (1 人分は 16 こで、7 こあまる。)

ポイント：「何人に分けられる」「何さつ入る」など、あまりを答えに使わない問題もあります。

わり算の筆算

思考力

かいとう

1 たいちさんの 計算を 見てください。

たいちさんの計算

$$87 \div 4 = 21 \text{ あまり } 4$$

(1) たいちさんの 答えは まちがっています。
どこが まちがっているか、せつめいしましょう。

あまりの4は、わる数の4と同じなので、
もう1回わることができる。あまりはわる数より小さくなる。

(2) 正しい答え： $87 \div 4 = 21 \text{ あまり } 3$

2 りなさんの 計算を 見てください。

りなさんの計算

$$236 \div 4 = 590$$

(1) どこが まちがっているか、せつめいしましょう。

商を立てる位がまちがっている。
百の位の2は4でわれないので、十の位から商を立てる。

(2) 正しい答え： $236 \div 4 = 59$

3 $84 \div 4$ と $840 \div 4$ の商を くらべます。

(1) $84 \div 4 = 21$

(2) $840 \div 4 = 210$

(3) 2つの 答えを くらべて、気づいたことを 書きましょう。

わられる数が10倍になると、商も10倍になる。

(84が840になると、21が210になる)

ポイント：わられる数が10倍になると、商も10倍になります。

わり算の筆算

まとめ

かいとう

Ⅰ 次の計算をしましょう。(各 15 点)

(1) $78 \div 3 = 26$

(2) $456 \div 4 = 114$

(3) $95 \div 6 = 15 \text{ あまり } 5$

- 2** 74まいの色紙を、1人に6まいずつ分けます。
何人に分けられて、何まいあまりますか。(25点)

(式) $74 \div 6 = 12 \text{ あまり } 2$

答え (12人に分けられて、2まいあまる。)

- 3** 236mのテープを、同じ長さに4つに切ります。
1つ分は何mになりますか。(30点)

(式) $236 \div 4 = 59$

答え (59m)

【単元のポイント】

1けたでわる わり算の筆算

4年生 算数 第3単元

学習指導要領（平成29年告示）の目標

【A 数と計算】整数の除法

除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の場合の計算が、基本的な計算を基にしてできることを理解し、その計算が確実にできること。また、その筆算の仕方について理解すること。

◆ 評価の3観点における目標

【知識・技能】

- 2位数や3位数を1位数でわる計算の仕方を理解している
- 筆算の形式を理解し、確実に計算できる
- 除法の計算が確実にでき、それを用いることができる
- あまりのある除法の検算ができる

【思考・判断・表現】

- 既習の計算の仕方を基に、1位数でわる除法の筆算の仕方を考えている
- 商の立つ位置について、被除数と除数の関係から見積もることができる
- 計算のきまりを基に、計算の仕方を多様な方法で表現できる

【主体的に学習に取り組む態度】

- 筆算の仕組みに関心を持ち、進んで計算しようとしている
- 日常生活で除法が使われる場面を見いだそうとしている

◆ 指導上の留意点（学習指導要領解説より）

1. 除法の意味と計算の仕方

- 除法は「等分除」と「包含除」の2つの意味がある
- 等分除：「全体を○等分した1つ分」（例：12個を3人で分けると1人何個）
- 包含除：「全体を○ずつ分けると何人分」（例：12個を4個ずつ分けると何人分）
- 筆算では両方の意味を活用できることを理解させる

2. 筆算の手順「たてる・かける・ひく・おろす」

- 商を立てる位置を最初に決める（最上位から考える）
- 「たてる→かける→ひく→おろす」の手順を繰り返す
- 各位での計算が乗法九九を基にしていることを意識させる
- 位ごとの部分積と差を正確に書く習慣をつける

3. あまりのある除法

- あまりは必ず除数より小さくなることを理解させる
- 検算：商 × 除数 + あまり = 被除数 で確かめる習慣をつける
- 実生活では「あまりを使う場面」と「使わない場面」があることに気づかせる

4. つまづきやすいポイント

- 商の立つ位置を誤る（百の位から立てるべきところを十の位から立てるなど）
- 0を商に立てる場合の処理（例： $306 \div 3 = 102$ ）
- あまりが除数以上になってしまう（商を1小さく立ててしまう）
- 繰り下がりのある引き算でミスする

◆ プリント作成時の配慮事項

1. 計算スペースの確保：筆算を書く十分なスペース（50mm以上）を確保する
2. 段階的な難易度：2位数 ÷ 1位数 → 3位数 ÷ 1位数 → あまりありの順に配置
3. 等分除・包含除の両方：文章題では両方の意味を含める
4. 誤答例の活用：典型的な誤りを題材にした「まちがい探し」問題を含める
5. 検算の習慣化：検算の方法をヒントとして明示する
6. 実生活場面：色紙、テープ、本、おかしなど具体的な場面を使う